

運用上の参考事項及び Q&A

目 次

1.	運用上のトラブル.....	3
	図書データを CSV 出力すると ISBN コードが指数表示になる.....	3
	図書データの CSV 読込（入力）についての注意事項.....	3
	図書登録番号の重複.....	3
	図書登録番号の変更.....	4
	禁貸フラグと廃棄フラグの設定に手間がかかる.....	4
	貸出返却作業が正常に出来ない.....	5
	利用者の CSV ファイルを間違っ読み込んでしまった.....	5
	ネットワークでの運用が正常に出来ない.....	5
	ネットワーク運用で注意すること.....	6
	クライアント/サーバーで運用したい.....	6
2.	サーバーデータベースエンジンで運用する場合.....	7
	データフォルダのコピー.....	7
	C/S データベースエンジンのセットアップと起動.....	7
	サーバーへの接続環境.....	8

1. 運用上のトラブル

図書データを CSV 出力すると ISBN コードが指数表示になる

図書データを CSV 出力して、エクセルで読み込むと次のように ISBN 項目のデータは指数表示されることがあります。この状態で CSV 形式で保存すると、指数表示でデータは保存されます。

AB	AC	AD	AE	AF
書名フリガ	著者フリガナ	ISBNコード	予備1	予備2
モジヤ モジヤ	セナケイコ	9.78483E+11	11	
アーンア	セナケイコ	9.78483E+11	11	
アーンア	セナケイコ	9.78483E+12	11	
キレイナ ハコ	セナケイコ	9.78483E+12	11	
ニンゾ	セナケイコ	9.78483E+11	11	
アウセン ネコ	セナケイコ	9.78483E+11	11	
イヤダ イヤダ	セナケイコ	9.78483E+12	11	

これを通常の数字表示に変えるには、この列を選択して、マウスの右ボタンを押して、セルの書式設定 ⇒ 表示形式 ⇒ 数値 に変更してください。

図書データの CSV 読込（入力）についての注意事項

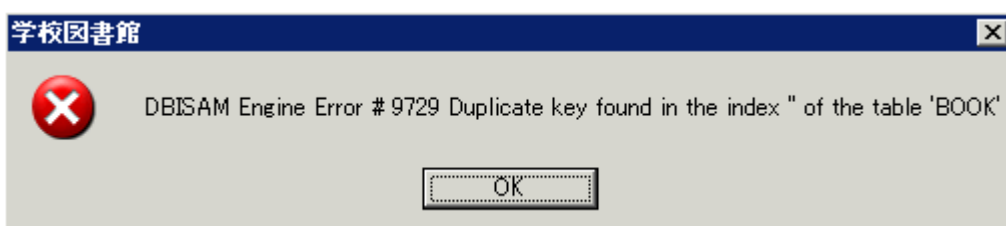
図書登録 ⇒ 補助作業 の中に図書データの“CSV 読込”、“TSV 読込”のボタンがあります。

この機能は、らくらく図書館を導入した最初に、他のシステムで運用していたデータを読み込むために用意した機能です。項目データの中に半角のカンマ(,)等が含まれていると、区切り記号と判断して正確にデータ読込が出来ません。この場合は、読込データをエクセルやメモ帳等で修正した後に再度読込をしてください。

重要な注意事項として、運用途中で図書データの CSV 出力を行い、このデータを CSV 入力しますと、正常に読み込めないデータがあると、重要なトラブルとなりますので、CSV 入力を行わないでください。何かの理由で CSV 入力が必要な場合は、データのバックアップを行っていつでも元に復元できる状態で試みてください。

図書登録番号の重複

図書登録画面で登録をしようとする「Duplicate」と文字の入ったエラーメッセージが出て登録ができない。



【解決方法】

図書の登録番号が重複しています。OK をクリックして、登録番号を変更してください。
既存の登録番号の確認は一覧表で行ってください。

図書登録番号の変更

貸出中の本の図書登録番号を変更してしまった場合、返却処理が出来なくなります。

例) 貸出時のコードは 126010027 現在のコードは 116010027

【解決方法】

補助作業 ⇒ 貸出簿マスターの編集 にて、該当貸出を見つけます。

生徒番号検索をすると探しやすいと思います。

次のように、図書コードはあっても書名がないものが表示されます。

生徒番号	固定番号	生徒名	図書コード	書名
▶10101	201004	太郎	126010027	

図書コードを正しく入力し直してエンターキーを押して下さい。

書名が表示されます。

生徒番号	固定番号	生徒名	図書コード	書名
▶10101	201004	太郎	116010027	くふうが楽しいいろいろ焼き菓子

登録ボタンを押して閉じてください。

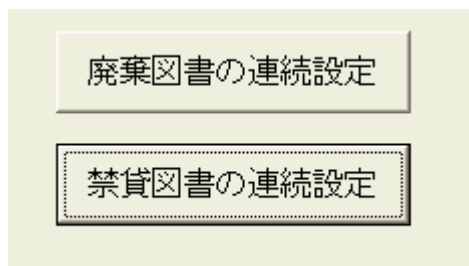


閉じるときに貸出簿調整が表示されますので、必ず「実行」して下さい。

返却処理は新コードで行ってください。

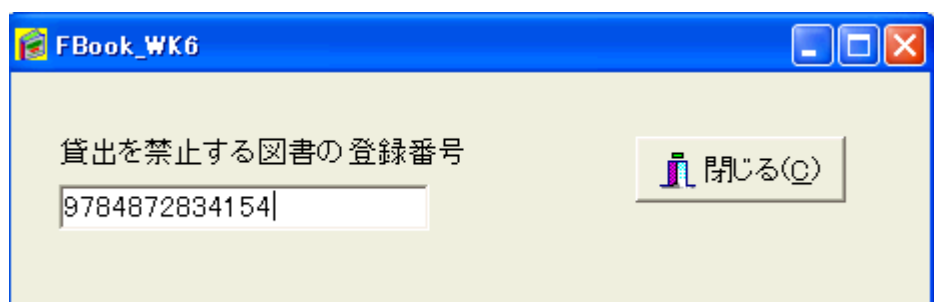
禁貸フラグと廃棄フラグの設定に手間がかかる

図書登録 ⇒ 補助作業の中に次のボタンがあります。



このボタンを押すと、次の画面が出ますので、貸出を禁止する図書登録番号をバーコードリーダーで読み取ると、連続設定が出来ます。

廃棄図書の設定も同様に行ってください。



貸出返却作業が正常に出来ない

補助作業メニューの中の「データテーブルの修復」を行ってください。

次に、「貸出簿再調整」を実行します。

以上の操作で、問題が解決しますが、ネットワークで運用している場合、他の場所での操作が行われていないことを確認の上実行してください。

また、以上の操作でも問題点が解決しない場合は、直近のバックアップデータから復元してください。

利用者の CSV ファイルを間違えて読み込んでしまった

利用者の登録画面で、正常でないレコードを削除してください。

もし、レコードが多い場合は、”Book”フォルダの中の次のName ファイルを削除してから、再度正しい利用者の CSV ファイルを読み込んでください。

kashibo.IDX	24 KB	IDX ファイル	2010/09,
Name.DAT	8 KB	DBISAM Table	2010/09,
Name.IDX	20 KB	IDX ファイル	2010/09,
NDC.DAT	6 KB	DBISAM Table	2010/08,

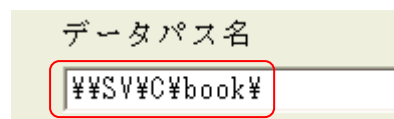
なお、運用途中でName ファイルを削除すると、正常な図書の返却が出来なくなりますので、利用者の復元が出来ましたら最後に

補助作業メニュー ⇒ 貸出簿再編成 を必ず実行してください。

ネットワークでの運用が正常に出来ない

パソコン間のネットワークは問題ないが、正常に図書の検索や貸出が出来ない問題の多くは、データパス名が正常でないことが考えられます。次のような論理パス名が同一であることを確認してくだ

さい。



単独で運用する場合は、C:¥Book のように、絶対パス名で運用しますが、ネットワークで運用する場合は必ず論理パス名を正しく設定してください。

ネットワーク運用で注意すること

ネットワーク上のトラブルは、電話などでの対応が出来ない場合がありますので、ネットワーク間の通信トラブルに対応できるパソコンに詳しい管理者のもとで運用してください。
一般的な注意事項

- ・ サーバーパソコンは常時動いていることを基本としますが、電源を切る場合は、必ず他のパソコンでの「図書館ソフト」の運用を終了していることを確認してから電源を切ってください。他のパソコンで運用しているときにサーバーの電源を切ると、データが破損します。
- ・ いつもは正常に運用出来ているのに、ある日から急に運用できなくなることがあります。多くの場合は、ネットワークが正常でないことが考えられますので、サーバーパソコンからサーバー上にある”Book”フォルダが正常に見られることを確認してください。

クライアント／サーバーで運用したい

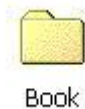
パソコンに詳しい管理者において、別途説明に基づいて設定してください。

なお、この方式での運用は通常サポートが困難な場合が多いので、別途ご相談ください。

2. サーバーデータベースエンジンで運用する場合

データフォルダのコピー

“Book” フォルダをサーバーパソコンの C ドライブのルートにコピーしてください。



サーバの環境設定の既定値は、

ドライブは C 、 データフォルダ名は Book としていますので、これ以外の設定にすると、データベースへの接続が出来ませんので注意してください。

C/S データベースエンジンのセットアップと起動

CD-ROM 中にある次のファイルをサーバのパソコンの C ドライブにコピーします。



このフォルダを開くと、次のようなファイルが出ますので、dbsrvr.exe を実行してください。データベースエンジンが起動します。



正しく、起動できたらステータスバーの右端に次のようなアイコンが現れます。



サーバの起動時に自動的にデータベースエンジンを起動させたい場合は、スタートアップメニューの中に次のように dbsrvr.exe のショートカットを入れてください。

(注意) dvsrvr.exe のコピーではなく、ショートカットを入れてください。



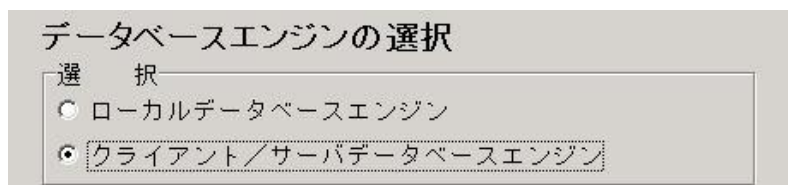
以上で、サーバーデータベースエンジンの設定と起動が完了します。

サーバーへの接続環境

「図書館」、「貸出と返却」、「図書検索」の各ソフトは何れもクライアントソフトとして活用できます。クライアント/サーバー環境で使うためには初回のみ次のような設定を行ってください。

ソフトを起動して、「初期設定」の画面に入ります。(初回のみ)

下図のようにクライアント/サーバーデータベースエンジンを選択します。



データベースエンジンの選択

選 択

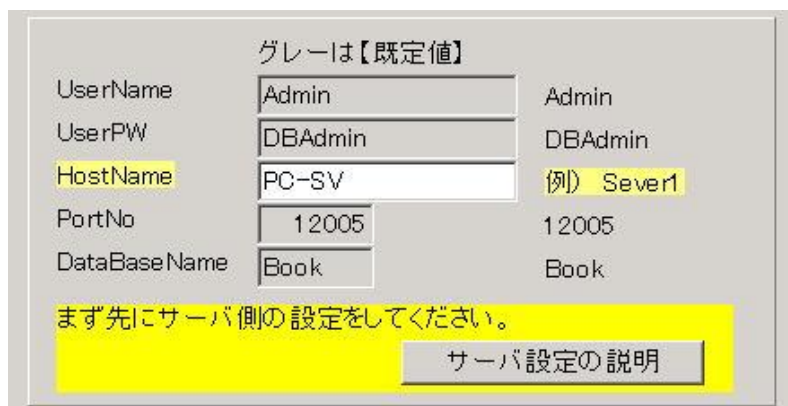
ローカルデータベースエンジン

クライアント/サーバデータベースエンジン

次のような画面が出ますので、ホスト名のみ入力してください。

ホスト名とは、LAN でパソコンを接続したときに画面に表示されるサーバーパソコンの名前です。

下記の例では、PC-SV となっています。



グレーは【既定値】

UserName	Admin	Admin
UserPW	DBAdmin	DBAdmin
HostName	PC-SV	例) Sever1
PortNo	12005	12005
DataBaseName	Book	Book

まず先にサーバ側の設定をしてください。

サーバ設定の説明

以上の設定が終わると、すべての環境設定が完了しますので、次回よりは

- ① サーバーパソコンのデータベースエンジンを起動する。
- ② クライアントの図書館ソフトを起動する。

以上により、クライアントサーバシステムの運用が可能になります。

(注意)

- ・ サーバーデータベースエンジンの起動は自動起動するようにすると便利です。
- ・ 必ずサーバーパソコンを先に起動 (電源 ON) して、また終了時には、サーバーパソコンは一番最後に終了 (電源 OFF) してください。
- ・ Book フォルダのコピーは、Windows 操作で行ってください。
- ・ 運用途中で、サーバーパソコンやネットワークにトラブルが生じると、データダメージを受けることがありますので、必ずデータの定期的なバックアップを行いながら運用してください。
- ・ C/S 環境での運用は、電話などでのメンテナンスが出来ませんので、必ず自己責任のもとで運用してください。